

立教大学ラテンアメリカ研究所報執筆要領

2018年11月7日改訂
2023年10月31日改正

I. 表題・構成

1. 表題、副表題ともに欧文タイトルを併記する（欧文タイトルの場合は日本語タイトルを併記）。
2. 本文・註・参考（引用）文献リスト・要旨の順とする。註は脚註方式ではなく、後註方式とする。論文・研究ノート以外の原稿に要旨は不要。

II. 本文

1. 項目建ては以下が望ましい。

1) (章) はじめに I. II. III. IV. …… おわりに
2) (節) 1. 2. 3. 4. ……

項目の後の本文は、和文の場合は1字下げ、欧文の場合はインデントしてから書き出す。

2. 言語表記

使用言語は日本語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語または英語とする。

日本語で外国語を表記する場合は、原則としてカタカナ書きとし、一般化していない固有名詞（人名、地名、機関名など）は現地音に近い表記とし、初出に限り原語をカッコ内に付記する。複合名・姓は「=」（半角ダブルハイフン）でつなぐ。

[例] ペルー農民連合（Confederación de Campesinos del Perú, 略称 CCP）
ガブリエル・ガルシア＝マルケス

- 1) 外国の単位（度量衡・貨幣）

カタカナ書きとする。ただし図表では一般的な単位（km、kg など）を用いる。本文中でもパーセントは「%」を用いる。

- 2) 数字

① 原則としてアラビア数字を用い、万以上には適宜（万、億、兆）の単位を使う。

② 文中のアラビア数字は半角にする。

[例] 23億3500万円

- 3) 年

西暦を用いる。表記は原則としてフル表記とする。

[例] 1980年

- 4) 継続年次

継続年次は、和文の場合波線「～」、または半角ハイフン「-」を用い、欧文の場合半角ハイフン「-」を用いる。

[例] 1990～95年、または1990-95年（和文）、1990-95（欧文）

5) United States of America の和文表記について

United States of America を指す場合に「アメリカ」という日本語片仮名書きは極力避け、「アメリカ合州（衆）国」「USA」「米国」などとする。

3. 図表・写真

- 1) 各図表には表題を付し、写真には適宜説明を付す。写真を転載する場合は執筆者の責任において使用許諾を得ること。
- 2) 図表・写真を複数使用する際は、それぞれに通し番号を付し、単位、出典を明記する。図 1、図 2 …、表 1、表 2 …、写真 1、写真 2 …などで統一する。

III. 本文および註の参考（引用）文献の表記

1. 引用

引用部分は、和文の場合一重カギ括弧（「」）で囲み、欧文の場合ダブルクォーテーション（””）で囲む。3行以上になる場合は、引用文の前後は1行あけ、本文より2字下げて書くこと。

2. 出典表記

1) 本文組込方式

本文では、限られた出典情報だけを記載。詳細は文献リストに譲る。

参考（引用）部分の直後に、[著者姓 発行年: ページ] の順で表記する。

[例] 村上春樹はこのように演説した[Sangiao 2009]。

[例] ヒュイッセンは「ホロコースト」の濫用がもたらす記号化や比喩化がもたらす危険性に警鐘を鳴らしている [Huysen 2003: 13-14]。

2) 後註方式

註の出典情報は、以下の通り記載する。

① 日本語文献

[初出時]

著者名、発行年、書名など、引用ページ。

[2 度目以降]

姓、前掲書（前掲論文）引用ページ。（前掲書・前掲論文の場合）

同上書（同上論文）、引用ページ。（同上書・同上論文の場合）

[例]

[初出時]

ガビラン、ルルヒオ、2021、『ある無名兵士の変遷——ゲリラ兵、軍人、修道士、そして人類学者へ』インディアス群書 15 巻、黒宮亜紀訳、現代企画室、230 ページ。

[2 度目以降]

ガビラン前掲書、67 ページ。

同上書、200 ページ。

② 外国語文献

[初出時]

著者名、発行年、書名など、引用ページ。

[2 度目以降]

姓 *op. cit.*, p. _____. （前掲書・前掲論文の場合）

Ibid., p. _____. （同上書・同上論文の場合）

[例]

[初出時]

Bolaño, Roberto. 2010. *El Tercer Reich*. Barcelona: Anagrama, p.356.

[2 度目以降]

Bolaño, *op. cit.*, p. 20.

Ibid., p. 13.

IV. 参考（引用）文献リスト

- ・参考（引用）文献は註の後に、日本語文献と外国語文献に分け、日本語文献の後に外国語文献を配列する。邦訳文献は原則として日本語文献に区分する（原著を明記したい場合には翻訳書の書誌データの後に付記する）。
- ・日本語文献は著（編）者姓名五十音順に並べる。
- ・外国語文献は著（編）者名を姓、名の順に倒置した上で著（編）者姓のアルファベット順に並べる。共著（編）の場合には筆頭著（編）者の姓名のみ倒置し、それ以外の著者名は各言語の通例通り。また and/ y/ e 等を最終著者の前に置く。&は使用しない。
- ・同一著（編）者の文献が複数ある場合には、出版年の古いものを先に、新しいものを後に並べる。
- ・同一著者の同一刊行年の文献には刊行年に a, b, c を付し、2005a、2005b、2005c などとする。
- ・単著・論文は合わせて出版年の順に並べ、編著はその次に出版年順に配列する。
- ・なお、雑誌掲載論文、単行書所収論文の場合にはできるだけ掲載ページも入れる。
- ・同じ著（編）者の文献が続くときは2度目以下は——（3倍ダッシュ）もしくは空欄で表記する。編著である場合には、——編、——(ed.)などとする。別の著者や編者が新たに付け加わる場合には、最初の著（編）者名も改めて明記する。
- ・副題の表記については、日本語文献では副題の前に——（2倍ダッシュ）を付け、外国語文献では副題の前に:（コロン）を付ける。

以下の例のように作品論を扱うため刊行年順ではなく作品ごとにまとめるのが有意義と考えられる場合などは適宜論文執筆者の判断に委ねる。

- [例] Rulfo, Juan. 1996. (primera edición 1953) *El llano en llamas*, Madrid, Cátedra.
2002 (初訳 1990)、『燃える平原』、杉山晃訳、水声社。
2007. (primera edición 1995) *Pedro Páramo*, Madrid, Cátedra.
2002 (初訳 1979)、『ペドロ・パラモ』、杉山晃・増田義郎訳、岩波書店。

文献リストを作成する際は、文献の形態、すなわち、単行本、論文、雑誌論文など、いずれの形態に属するものかが明らかになるよう、形態に応じた書誌情報（出版社、出版年、巻号ナンバー、ページ等）を記載する。

1. 日本語文献

シリーズ名は入れなくてもよい。出版地は省略する。

1) 単行本（翻訳書含む）

著者、発行年、『書名』シリーズ名、邦訳者名（邦訳書のみ）、出版社。

[例] ガルシア＝マルケス、ガブリエル、2006、『百年の孤独』ガルシア＝マルケス全小説集、鼓直訳、新潮社。

2) 単行書所収論文

執筆者、発行年、「論文名」、邦訳者名（邦訳論文のみ）、編者、『書名』シリーズ名（必要がある場合のみ）、出版社、掲載ページ。

[例] 飯島みどり、2000、「民主主義のための歴史とは何か——ラテンアメリカにおける歴史認識の最前線」、歴史学研究会編、『歴史における「修正主義」』シリーズ歴史学の現在 4、青木書店、267-291 ページ。

3) 雑誌論文

執筆者、発行年、「論文名」邦訳者名（邦訳論文のみ）、『雑誌名』巻号、発行月、掲載ページ。

[例] 狐崎知己、1998、「新自由主義化の政治と社会——ポスト紛争期中米諸国」、『ラテンアメリカレポート』第15巻2号、9月、9-15ページ。

4) 新聞、ニュース雑誌記事

執筆者、発行年、「記事名」、『新聞名』発行年月日。

[例] 杉山晃、2006、「書評：わが悲しき娼婦たちの思い出」、『日本経済新聞』2006年5月5日。

5) インターネット

インターネット資料の引用は公的機関など信頼のおける Web サイトが掲載する記事の引用に限る。孫引きや Wikipedia 等の記事の引用は認めない。

Web サイトの執筆者や主宰機関名、発表年、「記事名」サイト名。

Web サイトの URL（閲覧日）

[例] 国土交通省総合政策局観光企画課、2005、「我が国の観光統計の整備に関する調査報告書」
<http://www.mlit.go.jp/common/000059346.pdf>（2018年4月1日閲覧）

6) 未公刊物（内部資料、学位論文等）

執筆者、作成年、「論文名・資料名」、作成元（提出先）。

[例] 綿山友子、1999、「アルゼンチン日系人の日本語に対する意識」、立教大学大学院文学研究科比較文明学専攻修士論文。

7) インタビュー、聞き取り調査

註の中で「いつ、どこで、誰が、誰に（匿名の場合を除く）」聞いたのか説明書きを入れ、文献リストには掲載しないことを原則とする。

2. 外国語文献

著者名、著作機関名、書名、論文名、出版地、出版社名は、当該書、当該論文で使用されているものを使う。なお、機関名、紙誌名、出版社名の冒頭の定冠詞は原則として省略する。雑誌の書名は、英語の場合前置詞、冠詞以外のすべての単語を大文字で始め、スペイン語、ポルトガル語は書名の先頭の1文字のみを大文字にするなど、各言語の習慣に従う。ただし、コロンの後の副題の先頭文字は主題の先頭と同様に大文字で始める。

1) 単行本

著者. 出版年. 書名（イタリック体にするか下線を引く）. 版, 出版地: 出版社. 邦訳がある場合は邦訳を付してもよい。

[例] Allende, Isabel. 2015. *El amante Japonés*, Barcelona: Plaza & Janés. (邦訳: イサベル・アジェンデ、2018、『日本の恋人』、木村裕美訳、河出書房新書)

2) 単行書所収論文

執筆者. 出版年. “論文名,” in (en, em) 編著者名 ed. (comp.), 書名（イタリック体）, 出版地: 出版社, 掲載ページ.

[例] Espinal, Rosario. 1998. “Business and Politics in the Dominican Republic,” in Francisco Durand and Eduardo Silva (eds.), *Organized Business, Economic Change, and Democracy in Latin America*, Coral Gables: North-South Center Press, University of Miami, pp. 99-121.

3) 雑誌論文

執筆者. 発行年. “論文名,” 雑誌名 (イタリック体), 巻, 号 (月年), 掲載ページ.

[例] Grossman, Gene M. 1981. “The Theory of Domestic Content Protection and Content Preference,” *The Quarterly Journal of Economics*, Volume 96, Issue 4, November 1981, pp. 583–603.

4) 新聞、ニュース雑誌記事

執筆者. 発行年. “記事名,” 新聞・雑誌名 (イタリック体), 出版地 (特に必要がある場合のみ), 巻号 (新聞の場合は省略), 発行年月日.

[例] Sangiao, Antonio. 2009. “Murakami recibe un premio de los escolares gallegos,” *El País*, 12 marzo 2009.

5) インターネット

インターネット資料の引用は公的機関など信頼のおける Web サイトが掲載する記事の引用に限る。孫引きや Wikipedia 等の記事の引用は認めない。

Web サイトの執筆者や主宰機関名. 発行日. “記事名” サイト名 (イタリック体), 発行地 (特に必要がある場合のみ).

Web サイトの URL (閲覧日)

[例] Brown, Mark. June 15, 2012. “The Bogotá Green Divide” *CitiNature a better urban life*.
https://www.citnature.org/uploads/4/7/4/0/4740372/citnature_report_bogota_green_divide.pdf (March 10, 2017)

6) インタビュー、聞き取り調査

日本語文献と同様。

VI. 原稿校正について

1. 初校の校正は執筆者の責任で行う。ただし、表記の統一に関わる変更や註・参考文献の書式、明らかな誤字・脱字の修正等は編集委員会の責任で行うことがある。
2. 原則として執筆者は再校の校正までを行い、三校は編集委員会の責とする。
3. 校正の段階で大幅な加筆修正を施すことはできない。

V. 著作権

1. 所報に掲載された原稿の著者は、ラテンアメリカ研究所が当該原稿の複製及び公衆送信を行うことを認めたものとみなす。
2. 著作権に関し、本規程に規定されていない事項については、著作権法に拠るものとする。
3. 研究所報に掲載された著作物は、原則として、すべて立教大学のリポジトリに登録され WEB 公開される。

立教大学ラテンアメリカ研究所
所報編集委員会